

20160428 第1回ジオパーク下仁田協議会学術部会

日時：平成28年4月28日（木） 19時～

場所：下仁田町自然史館ミーティングルーム

出席者：高桑、里見、原田、菅原、渡辺、横田、吉川、鈴木、関谷、片山

高桑 県博学芸員 古生物化石担当

里見 下仁田自然

学校 植物担当

原田 工学部出身 機械科の教員として群馬へ 鉄のことを調べる中で中小坂鉄山へたどり着いた

菅原 県博学芸員 地質岩石鉱物担当 付加体地質、分析

渡辺 県立農林大学校 野菜園芸 下仁田ねぎ研究

横田 下仁田町歴史館 元ジオパーク担当

吉川 群馬大学 鉱物学

真野 自然学校 ジオパークの立ち上げから協力をしている

司会：鈴木

(1) 部会長選任

- ・学術部会ではジオサイトの科学的根拠、防災教育、ジオサイトの学術的な価値の検討（保全の優先度など）をお願いしたい（関谷）
- ・他の部会から調査の依頼があれば、調査も担当する（鈴木）

部会長⇒高桑 副会長⇒真野 で決定

高桑先生が県博の20周年で忙しいため副会長を真野先生が担当する

(2) 下仁田ジオパークの見せ方（科学的な裏づけ、保存すべき優先度）

- ・下仁田ジオパークはテーマがぼやけていてわかりにくい、わかりやすいテーマを検討してほしい（関谷）
- ・下仁田はクリッペを推しすぎていないかという意見がある（関谷）
- ・クリッペはたいいていの人には知らない 話のつなぎ方を考えるべき（吉川）
- ・ジオパークの今の問題は一般層の入りにくさ その解決策を議論するべきでは（吉川）
- ・学術的すぎると一般の人にはついてこない 歴史・風土などを取り込んで優しく解説する必要がある 現状は学術的な部分が強すぎる（里見）
- ・下仁田地域の研究は今も行われており、学術的な部分は足りているのではないか 一般

にどう落とし込んでいくのを検討していくべき（高桑）

・どのくらい調査ができているのか、ガイドがどれくらいいるのか、現状を提示してほしい（菅原）

・ビジョンを明確にし、現状との差を確認しながら再認定に向けた具体的な計画を立てていかないといけない。（菅原）

・展示室のコンセプトも検討していく必要がある（里見）

・今の展示は地質に偏りすぎている（吉川）

・石灰、鉄鉱石などの資源が見つかることが下仁田が地質で有名になった要因ではないか（里見）

・ねぎとこんにゃくは下仁田の外の人にも有名　ここをもっと充実させるべきでは（高桑）

・学術部会は研究支援の機能も持つべきでは（菅原）

・鉄鉱石を見たことがある人は少ない　鉄の原料は見た目が様々なので比べられるような展示が面白いかもしれない（吉川）

・生きるのに必要な資源のもとになっているものは意外と知られていない　それを見せていくことは重要では（吉川）

・科学的な裏付けのレベル、基準をはっきりさせていくべき（菅原）

（3） 大学連携について

・大学連携の方法について検討してほしい（関谷）

・町の域学連携事業として予算が 50 万円ある（鈴木）

・他のジオパークでは研究奨励事業を行っている　予定はあるか（高桑）

・自然学校が宿泊地の支援を行っている　早稲田、新潟大などが利用している（関谷）

・研究で外の力を呼ぶためになにができるか検討していくべき　手続きのアドバイス、研究費助成など（高桑）

・地道なデータ集めは地元が積極的に行っていくべき　データがそろったところで外部の人も混ざって検討を行っていくのが良いのでは（吉川）

（4） 防災教育について

・長期ビジョンの作成

・過去の災害を明らかにする必要がある（里見）

・災害教育？安全教育？ジオパークの推進に必要なものはなにか検討が必要（里見）

・防災教育を進めていくのではなく、防災教育のための災害の背景などの情報提供が学術部会の機能ではないか（吉川）

・防災マップはあるが、地域住民に浸透していない（里見）

・神津牧場の地すべりの現地観察会を事務局で計画中（関谷）

(5) 各団体との連携方法

- ・大学、博物館、自然学校、中小坂鉄山研究会、応援団などの団体との連携方法を検討してほしい（関谷）

(6) ジオパーク関東大会分科会

- ・関東ジオパーク共通のストーリー作りの分科会を担当してほしい（関谷）
- ・銚子大会ではそれぞれの地域の要素を共有したところまでやっている（関谷）
- ・広報は8月から それまでに内容を決定したい（鈴木）
- ・参加者は150名見込み（関谷）
- ・ジオサイトの言葉の定義を検討というテーマ案もあり（鈴木）
- ・事務局から資料や原案を出してもらいたい 関東大会がどんなものかわからない（横田）
- ・分科会の時間は最大3時間程度取れる予定（鈴木）
- ・基調講演の内容を受けて分科会のテーマを決めるべきでは（高桑）
- ・スケジュールが詰まっていた、分科会の時間が短かったなどが銚子大会の反省点として出ている（関谷）
- ・協議会で詳しい大会の内容を検討するので次回の部会では具体的な情報を出せるはず（関谷）

次回開催日

協議会開催後 18:30～

用意するもの

- ・科学的な裏づけの状況
- ・再認定審査に向けた下仁田ジオパークの現在の準備状況
- ・関東大会のスケジュール